

末友浩一さん (大浦)

現在、高知大学農学部の大学院に在籍。毎日たいやあやなどの生態について調べています。



地元は京都なんですけど、釣りが好きで迷わず海や川のきれいな高知の大学に来ることに決めました。

今、スキューバダイビングをやっている。興味と実益をかね、月に何日かは愛媛県の御



黒岩由喜さん (白木谷)

仕事の農業が一年中大忙し。その合間をぬって小説を書いたり、温泉に行ったりと多趣味な方です。

春は竹の子、夏はふき、秋は四方竹、冬は草刈りで忙しいです。同人誌で小説やエッセイを書いていますが、暇がなくて思うように書けません。会長さんによく怒られています。夜、仁事が終わってからたまにパチンコに行きます。気分転換にいいですね。今はらさがシーズンで忙しいですが、終わったら温泉でおいしいものを食べてゆっくりしてきます。

部落差別は、明治以後なぜ

残されてきたのでしよう⑭

水戸を運動に対する強圧

一九二二(大正十一年)、長岡水立社結成大会の翌日逮捕された国沢龜は、治安警察法違反と職務執行妨害罪で起訴され、翌夜八カ月、執行首予三年の有罪判決を受けました。

このため、水戸社長岡支部は結成できませんでしたが、一九二五年に弘岡に、その翌年には中村といくつかの支部がつくられたといわれていますが、いずれも正確な記録は残されていません。

一九二二年の全国水戸社創立大会のときも、政府・内務省はこれを中止させようと、大会前夜、部落改善運動の先頭に立っていた三好伊平次を大会本部の旅館に派遣して、「水戸社創立を断念するならば、地方改善費を二百万円交付しよう」と申し入れました。

対応した阪本清一郎は、水戸社創立の意義を説きながら、やんわりと断わっています。

阪本はこの事実を同志たちにも告げなかつたそうです。

この数年間、米価の高騰にあえぐ国民の不満は、米騒動となって爆発しました。米騒動で起訴された八千人余りのうち、一割余りが被差別部落の民衆であつた事実を驚いた政府は、一九二〇年度に、内務省社会課に

同和教育シリーズ

地方改善費として、初めて五百万円を予算化しました。翌年には二一百万円を増額し、あわせて部落対策にのりだ

しました。

三好伊平次の提案した二百万円は、当時の地方改善予算のおよそ十倍になります。

政府内務省は、水戸社運動が他の労働・農民・婦人運動と連帯することを最も恐れて、懐柔策を取ったり、警察を使って弾圧してきました。

本年三月、全国水戸社創立七十四周年記念集会以奈良の寺

本知さんは、当時の思い出を次のように語っています。

「その頃、水戸社の演説会を開くといつても、今のようには解放会館や集会場は、ここにもありませんから、よく村のお寺で開催していました。川路君が話したと必ず臨席の警官が「弁士注意！」とか「弁士中止！」と叫び弁士の発言を封じました。命令に従わないと「弁士機東！」の声かどび、ドカドカと制服私服の警官が外部からもなだれこんできました。弁士を拉致しようとする警官とそれを阻止する同志たちともみ合いとなり、会場内は怒号、野次、悲鳴で大混乱となりました。」

これは、当時の水戸社運動が、悪名高い治安警察法のもとで、いかに圧迫されていたかを物語っています。

このような厳しい規制や弾圧のなかにあつても、各地の青年たちは、その志を受け継ぎ、ひるまずに地道な活動を続けていきました。